



2008年8月1日掲載

三浦海水浴紀行2008／好物が・・・編

今月の「つれづれWEB」は「三浦海水浴紀行2008」と題し、昨年の「三浦海水浴紀行」（2007年8月掲載）に引き続き三浦への海水浴の模様をお送りしよう。

しかも、今年は7月と8月の2回行くので、それぞれ掲載する予定。実は、この文章を掲載した段階で、まだ8月分の海水浴には行っていないのだ。

そのため、天候などによって回数が変わってしまう可能性もある。当日になってみないとわからず、ある意味スリリングな展開となるのだ。

さて、目的地は今年も、横須賀市と三浦市の境にある和田長浜（わだなはま）海水浴場。横須賀市側が「長浜」、三浦市側が「和田」と名乗るが、砂浜自体は一続きである。

三浦縦貫道林ICから車で10分ほどの距離で、海の家も4～5軒あり、駐車場も完備。家族連れが多い海水浴場である。

7月の3連休、朝7:30に自宅を出発。連休だけあって、平日は渋滞する環八も、この日は至って順調だった。

第三京浜、横浜新道、横浜横須賀道路、三浦縦貫道と有料道路を乗り継ぎ、和田長浜海水浴場に到着。休日の渋滞を懸念していたが、1時間半ほどで着くことができた。

さらに、9:00前に着いたにもかかわらず、駐車場も空きが。駐車場待ちを覚悟していたが、難なく入ることができたのだ。

車を止め、早速海の家に。昨年も訪れた、綺麗な海の家である。

コンテナハウスを連結して、シャワー室や冷房質も完備。さらに、屋上にはテラスもあるのだ。

しかし、この日は番組ロケのため、15:00から貸し切りになるとのこと。それまでの間、テラスは半分だけの利用となるようだ。

受付、着替えを済ませ、早速海へ。曇っているせいか、海水が少し冷たい。

それでも、海水は気持ちいい。ただ、思わぬ「来客」もいたのだ。

それは、クラゲ。刺されるような被害はなかったが、クラゲがいっぱい漂っていたのだ。

クラゲを蹴飛ばす少年を始め、クラゲを投げ合うグループまで出現した。クラゲで遊ぶのも1つの手？

そんなこともあってか、家族3人で砂遊び。道具を使わず、純粋な手掘りで長さ5mほどの塹壕を掘ってみた。

さらに、さっきまで遊んで放置された穴にも塹壕を「連結」。長い塹壕が完成した。

そして時刻は12:00、お昼である。今年も、我が息子の好物であるサザエの壺焼きを注文する。

セルフサービスで、サザエをコンロに乗せようとする。しかし、サザエ同士が組んずほぐれつ絡み合い、なかなか取れないのだ。

運命を悟ったのか、ほかのサザエに助けを求めているようにも見える。でも、ほどなくサザエの引き離しに成功し、コンロに乗せる。

サザエが焼き上がり、我が息子に好物のサザエのわたを食べさせる。すると、渋い顔をして「苦〜い！」と言いだしたのだ！

去年は大人でも嫌がるわたを「うまい、うまい」と食べていたのに、この豹変ぶり。この1年でサザエのわたよりおいしいものを数多く知ったのか、好物がすっかり苦手になってしまったようだ。

お昼を食べ、海岸近くの磯へ。この模様は、[こちら](#)へ続く。

[\[トップページ\]](#)



2008年8月8日掲載

三浦海水浴紀行2008／磯&プール編

今月は「三浦海水浴紀行2008」と題してお送りしているが、今回はその2回目。前回は[こちら](#)をご覧ください。

昼食を食べた我々は、海岸に隣接した磯へ向かう。ここにも、多くの家族連れが訪れていた。

早速潮だまりを探索。目をこらすと、小さいヤドカリやカニなどがうごめいている。

潮だまりを歩いていたヤドカリを捕まえると、ヤドカリは体を貝の奥に引っ込める。それを我が息子に見せると「どこに行ったの?」と不思議そうな顔をしていた。

それでも、貝をよく見るとヤドカリの足が見える。我が息子は足を見て「いた」と納得したようだ。

磯には、ウニの死骸もあった。1つではなく、2個、3個とあったのだ。

もしかしたら、ここで獲れるのかもしれない。シュノーケリングしている子供もいたので、少し潜れば探せるのだろうか?

磯での散策を終え、再び海岸へ。天気も、午前中とはうって変わって、すっかり晴れて夏らしく暑くなってきた。

我が息子は海に入らず、海の家の上屋上テラスに設置されたプールに入る。そこには、「先客」で我が息子と同年とおぼしき女の子が入っていた。

子供同士は見ず知らずでも、すぐに仲良くなる。いつの間にか一緒に遊んでいたのだ。

ここでハプニング発生! プールで遊んでいた浮き輪が、テラスの外に飛んでいってしまったのだ。

浮き輪は、テラスの柵の外、1階の屋根の上に落ちた。棒でないと取れないような場所なのだ。

しかし、すぐそばにデッキブラシを発見。これで取れるかどうか試してみた。

デッキブラシで、何とか浮き輪に触れることに成功。ただ、長さはギリギリなので、下手をすると取れなくなってしまう可能性も秘めている。

それでも、何とかしてたぐり寄せて浮き輪を確

保した。我が息子には、浮き輪を投げ飛ばさないように注意する。

一方、テラスの半分では、番組収録の準備が着々と進行。タレント陣が続々とやってきた。

時刻は14:30、帰りに私の実家に寄るため、早めに帰る準備をする。シャワーを浴び、着替えて水着を脱水機にかけ、海の家をチェックアウトした。

その際、次回訪問時に適用される割引券をもらう。もちろん、8月にも来る予定があるので、ありがたくいただく。

和田長浜海水浴場をあとにし、国道134号線へ。すると、渋滞していたのだ。

「7月の3連休だけに帰り渋滞か……」と覚悟したものの、渋滞の先頭は荒崎入口交差点。単純に、青の時間が短かったようだ。

その後、三浦縦貫道はあえて通らず、林ロータリーから県道を通り、横浜横須賀道路衣笠ICを目指す。

一昔前なら、このルートは夏のシーズンは渋滞の名所だった。しかし、今では三浦縦貫道開通のおかげで渋滞もなくなっている。

渋滞もなく衣笠ICに入り、横横道路へ。実家へのお土産を買いに横須賀PAに立ち寄り、実家へと向かった。

さて、予定なら8月初旬にも再び和田長浜海水浴場へ行っているはずだが、果たして行くことができたのだろうか？ 結果は[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



2008年8月15日掲載

三浦海水浴紀行2008／今季2度目は？編

「三浦海水浴紀行2008」と題してお送りしている「ふくちゃんの“つれづれWEB”」は、今回が3回目。[1回目](#)、[2回目](#)はそれぞれからどうぞ。

さて、前回で予告したとおり、今回は今季2回目となる神奈川・三浦半島の相模湾沿いにある和田長浜（わだなはま）海水浴場への海水浴の旅をお送りするはずだった。果たして、本当に行くことができたのだろうか？

答えは、YES! 懸念されていた激しい雷雨もなく、絶好の海水浴日和となったのである。

今季2度目は、平日の海水浴ということもあり、自宅を6:30に出発。途中、環八の渋滞を迂回しながら、前回と同じく第三京浜、横浜横須賀道路、三浦縦貫道を通り、和田長浜には8:20に到着した。

平日の朝ということもあり、人出もまばら。そのおかげか、海も非常に澄んでいた。



前回も利用した海の家にチェックイン。前回もらったチラシで、割引が効くのである。

着替えを済ませ、日焼け止めもバッチリ塗って、準備万端。海へとなだれ込むのだ。

遠くには伊豆半島や箱根、丹沢の山々も臨み、沖合の船もよく見える。夏にしては、視界がよさそうである。

そうこうしているうちに、我が息子は砂遊びに夢中。なかなか海に入ろうとしない。

昨年、岸にたどり着いた瞬間に波をかぶったトラウマがあるのか、あるいは足にからみつくワカメを嫌ってか……。真相は本人のみぞ知ることか、砂遊びにいそしんでいるのだ。

それでも、親に半ば強制されると、渋々海につ

かる。海に入っても、すぐに岸に行こうとするのである。

この日は、午前中から合宿中の高校生や、海岸に隣接する「三浦ふれあいの村」に宿泊していた小学生たちが大挙して押し寄せてきた。どちらも数十人規模で、ある意味やりたい放題と化していた。

そのため、高校生が投げ合っていた泥団子が嫁に当たり機嫌を損ねるといふハプニングも。若気の至りとはいえ、少しは考えて欲しいものである。

また、これだけの大人数が一気に海になだれ込んだため、海水が濁ってしまったのだ。海中を歩くことで、海底のあちこちで砂が巻き上げられるからである。

ところで、今回は沖合に浮かぶ海水浴場の境を示すブイまで泳いでみた。といっても、浮き輪を使ってである。

バタ足を使って泳ぐのは、実に十数年ぶり。そのためか、非常に疲れてしまう。

ましてや、ちょっとずつしか進まないのだから、疲労度も倍増。でも、ドルフィンキックなら意外と疲れずに進めることを発見した。

沖合のブイを触って、岸へUターン。たかだか50mくらいの距離だろうが、日ごろの運動不足もたたってしんどい往復となったのだ。

ここで正午となり、昼食を取る。前回我が息子が苦手となってしまったサザエは、今回パスする。

そして、今回は海の家屋上にあるデッキで食事をした。よしずで日光を遮っているのだから、海風が通り抜けるだけで涼しいのだ。

その後、我が息子は屋上のお子様プールで遊んだあと、再び海へ。しかも、自ら進んで浮き輪にまたがって入水したのだ。

ようやく「海は楽しい」と思えてきたのだろうか？ また、海に対する恐怖心もなくなったのだろうか？

15:00となり、帰る準備に。そして15:30に、和田長浜海水浴場に別れを告げた。

このあとは、三崎港へ向かうのだ。その模様は[こちら](#)へと続く。

[\[トップページ\]](#)



2008年8月25日掲載

三浦海水浴紀行2008／三崎マグロ編

今月の「ふくちゃんの“つれづれWEB”」は、「三浦海水浴紀行2008」と題してお送りしているが、いよいよ最終回！ [1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)はそれぞれをご覧ください。

和田長浜（わだなはま）海水浴場を出発した我々は、一路三浦半島の突端、三崎港へ。その前に、和田長浜海岸のすぐそばにある農業公園「ソレイユの丘」の前を通る。

パンやピザの製作や、ジャガイモなどの収穫が体験できる施設だが、今回は素通り。次回以降への課題とした。

その後、途中コンビニでアイスを買って、三崎港に到着。寄り道したので、普段なら和田長浜海岸から15分ほどで着けるところが、倍の30分かかった。

三崎港では、前回も訪れた三崎フィッシャリーナ・ウォーフ「うらり」に再訪。産直コーナーやイベントスペースもある施設である。

しかもこの施設、港に隣接しているのだ。我々が到着したとき、ちょうど漁船がマグロを荷揚げしているところに遭遇した。



ちょっと見づらいかもしれないが、中央の白い楕円形1つ1つが冷凍マグロである。一度に、数匹の冷凍マグロが荷揚げされていた。

マグロは船からクレーンでつり上げられ、フォークリフトへ下ろされる。そして、フォークリフトに乗ったマグロたちは、すぐに保冷車に積み込まれるのだ。

まさしく「マグロの街」三浦の光景！ 思わず写真に納めずにはいられなかった。

うらりて少し休憩したのち、お土産を物色。しかしながら、平日の夕方ということもあり、開いている店はまばらである。

それでも、自宅へのお土産はもちろんマグロ。自分用のお土産であるマグロの酒盗と、職場へのお土産も欠かさない。

時刻は17:30を過ぎ、そろそろ夕食の時間である。今回は、うらり周辺の店からピックアップすることにした。

いろいろ回ったが、井ものに決定。料亭旅館の支店に入ってみた。

この店は、何と「鮪のかぶと焼」を登録商標にしている老舗。お品書きにも、要予約ながらマグロの兜焼が堂々と掲載してある。

でも、我々が食べるのは井もの。我が息子は兜焼を見た瞬間「これ」と言い放ったが、両親の「今日はやってない」という必死の説得でねじ伏せる。

私と嫁さんは4種類のマグロの刺身が楽しめる四色井、我が息子はいくら井を注文。そしてほどなく、3つの井がやってきた。

四色井は、「さすが三浦」とうならせるだけの美味。これに、マグロの酒盗とみそ汁がついているのだ。

あっという間に平らげてしまい、我が息子もいくら井をほぼ完食。これには正直、満足だった。

18:30を回り、日もとっぷりと暮れてくる。我々は、三崎港をあとにした。

三浦海岸を通り、佐原ICから横浜横須賀道路、横浜新道、第三京浜を經由し、20:30に自宅着。今年の楽しい夏は終わったのである。

来年は、どんな夏が待っているのだろうか？

[\[トップページ\]](#)